

2023年軍事費ランキング、脅威への備えが顕著に ～SIPRI 軍事費データ 2024年4月版公表、リアリズムと純金茶碗～

取締役 総合調査部長 石附 賢実

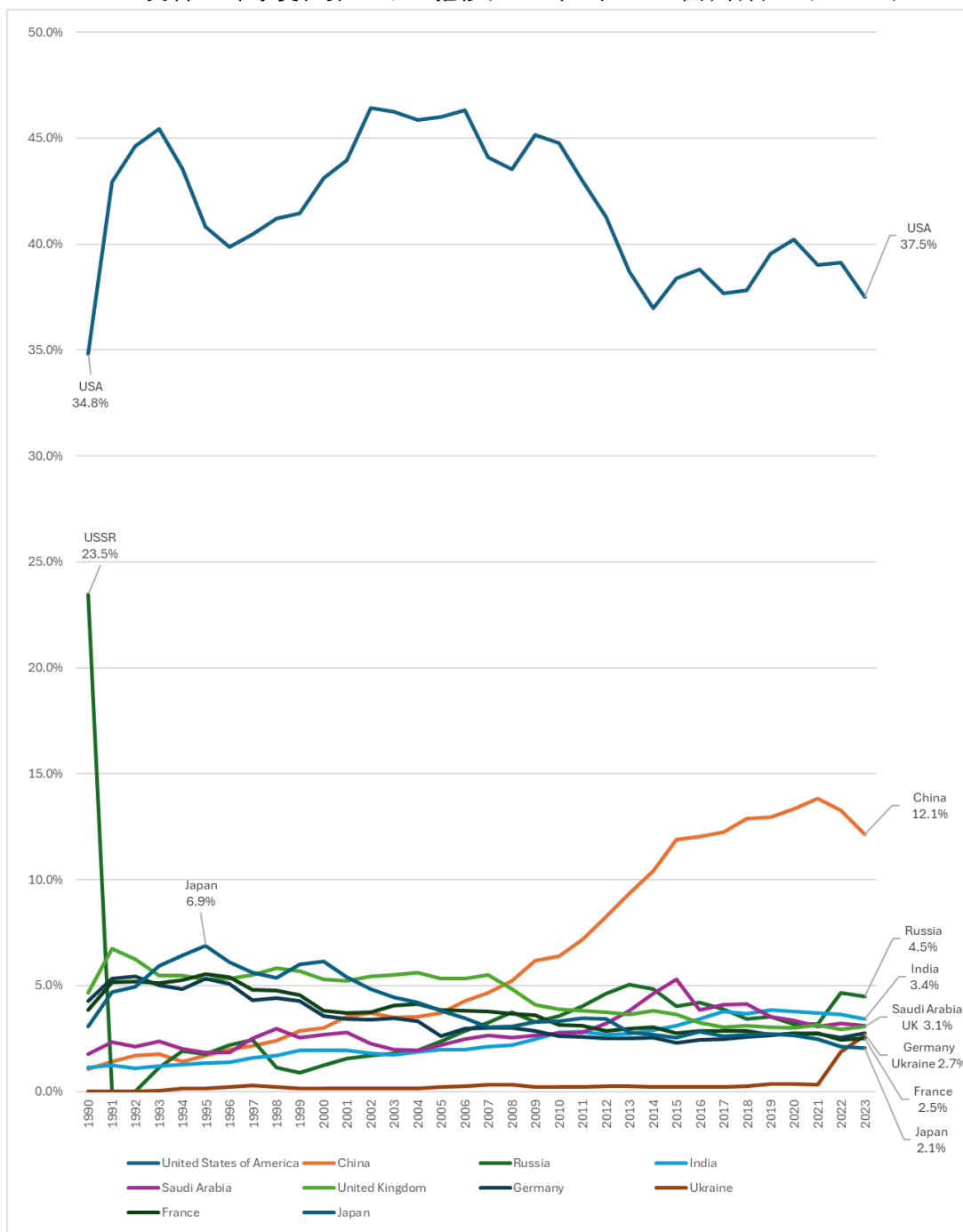
(要旨)

- 2024年4月22日、SIPRI（ストックホルム国際平和研究所）の Military Expenditure Database の更新データが公表された。まず軍事費の世界シェアと実額の推移を把握すべくデータを取りまとめて図表で紹介する。
- 次に、ソ連崩壊直前から2023年までの世界シェアの推移を概観すると、1990年には米国の34.8%、ソ連の23.5%と東西冷戦の盟主が双壁となっていた。ソ連崩壊以降、米国一強の時代が継続しているなか、中国がその経済成長と歩調を合わせて台頭した。中国が台頭したといっても現在も米国一強の趨勢に変化はない。
- 2023年は1位・2位の米中のシェアが落ちているのが分かる。これは、主にロシアによるウクライナ侵略を受けて、米中以上に軍事費を伸ばしている国が散見されることによる。2023年上位15か国で対前年増加率が目立つのは3位ロシア、7位ドイツ、8位ウクライナ、10位日本、14位ポーランド、15位イスラエルである。
- 筆者は従前から「国民一人ひとりが安全保障を身近に感じる事が重要」であるとの考えのもと、企業の不正防止に係る Fraud Triangle を援用して「備え」の重要性などを紹介してきた。東京で純金茶碗の盗難事件が発生したが、アクリルケースが無施錠だったとされ、判断を誤り後先考えずに「盗れそうだから盗った」ものである。安全保障の文脈では、備えを怠ることは、権威主義国家のリーダーの誤った判断に繋がりがかねないことを示唆している。
- 軍事力による備えは、外部の脅威に対応するリアリズムのアプローチとして、より一層重要な要素となりつつある。特にウクライナのブチャなどの惨劇を映像で誰しもが見せつけられる今日において、リアリズムに基づくバランス戦略（自力あるいは同盟等により力の均衡を図る）以外の選択肢は取りづらい状況になっている。中立や宥和・バンドワゴン（脅威となる国に気に入られるように妥協、行動する）で主権と平和を守れるのだろうか。軍事費の増加は各国の認識を示している。

1. 2024年4月SIPRI公表軍事費データ

まず、SIPRI（ストックホルム国際平和研究所）が2024年4月22日に公表した更新データを取りまとめ、軍事費（注1）の世界シェアと実額の推移を図表で紹介する（資料1、2）。

資料1 軍事費世界シェアの推移(2023年上位10か国、名目US\$ベース)



(出所) SIPRI Military Expenditure Database April 2024 より第一生命経済研究所作成

(注) 1990年のロシアはソビエト連邦(USSR)の数値

資料 2 軍事費の推移(2023 年上位 15 か国、名目 US\$ ベース)

(単位:百万US\$)

Country	2000	2005	2010	2015	2020	2022	2023	2022-2023変動
1.United States of America	320,086	533,203	738,005	633,830	778,397	860,692	916,015	順位 1 -> 1 増加率 2.3%
GDP比	3.11%	4.09%	4.90%	3.46%	3.65%	3.34%	3.36%	
シェア	43.1%	46.0%	44.8%	38.4%	40.2%	39.1%	37.5%	
2.China	22,237	42,790	105,523	196,539	257,973	291,958	296,439	順位 2 -> 2 増加率 6.0%
GDP比	1.84%	1.87%	1.73%	1.78%	1.76%	1.62%	1.67%	
シェア	3.0%	3.7%	6.4%	11.9%	13.3%	13.3%	12.1%	
3.Russia	9,228	27,337	58,720	66,422	61,713	102,367	109,454	順位 3 -> 3 増加率 23.5%
GDP比	3.31%	3.33%	3.59%	4.87%	4.17%	4.69%	5.86%	
シェア	1.2%	2.4%	3.6%	4.0%	3.2%	4.7%	4.5%	
4.India	14,288	23,072	46,090	51,295	72,937	79,977	83,575	順位 4 -> 4 増加率 4.2%
GDP比	2.95%	2.91%	2.89%	2.46%	2.81%	2.36%	2.44%	
シェア	1.9%	2.0%	2.8%	3.1%	3.8%	3.6%	3.4%	
5.Saudi Arabia	19,964	25,392	45,245	87,186	64,558	70,920	75,813	順位 5 -> 5 増加率 4.3%
GDP比	10.53%	7.73%	8.57%	13.02%	8.79%	6.40%	7.09%	
シェア	2.7%	2.2%	2.7%	5.3%	3.3%	3.2%	3.1%	
6.United Kingdom	39,344	61,654	63,979	59,990	58,332	64,082	74,943	順位 6 -> 6 増加率 7.9%
GDP比	2.37%	2.42%	2.57%	2.05%	2.16%	2.07%	2.26%	
シェア	5.3%	5.3%	3.9%	3.6%	3.0%	2.9%	3.1%	
7.Germany	26,498	30,325	43,026	38,170	53,319	56,153	66,827	順位 7 -> 7 増加率 9.0%
GDP比	1.36%	1.07%	1.27%	1.14%	1.37%	1.38%	1.52%	
シェア	3.6%	2.6%	2.6%	2.3%	2.8%	2.6%	2.7%	
8.Ukraine	1,137	2,405	3,729	3,503	6,839	41,184	64,753	順位 11 -> 8 増加率 50.7%
GDP比	3.51%	2.79%	2.74%	3.85%	4.40%	25.88%	36.65%	
シェア	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	1.9%	2.7%	
9.France	28,403	44,442	52,044	45,647	52,747	53,639	61,301	順位 8 -> 9 増加率 6.5%
GDP比	2.09%	2.02%	1.97%	1.87%	2.00%	1.93%	2.06%	
シェア	3.8%	3.8%	3.2%	2.8%	2.7%	2.4%	2.5%	
10.Japan	45,510	44,301	54,655	42,106	51,397	46,880	50,161	順位 9 -> 10 増加率 10.7%
GDP比	0.92%	0.92%	0.95%	0.95%	1.02%	1.11%	1.20%	
シェア	6.1%	3.8%	3.3%	2.5%	2.7%	2.1%	2.1%	
11.Korea, South	13,801	22,160	28,175	36,571	46,117	46,365	47,926	順位 10 -> 11 増加率 1.1%
GDP比	2.46%	2.47%	2.46%	2.49%	2.80%	2.77%	2.81%	
シェア	1.9%	1.9%	1.7%	2.2%	2.4%	2.1%	2.0%	
12.Italy	19,879	29,738	32,021	22,181	32,929	34,692	35,529	順位 12 -> 12 増加率 -5.9%
GDP比	1.74%	1.60%	1.50%	1.21%	1.74%	1.69%	1.61%	
シェア	2.7%	2.6%	1.9%	1.3%	1.7%	1.6%	1.5%	
13.Australia	7,274	13,238	23,218	24,046	27,301	32,445	32,340	順位 13 -> 13 増加率 -1.5%
GDP比	1.83%	1.80%	1.85%	1.95%	2.01%	1.91%	1.92%	
シェア	1.0%	1.1%	1.4%	1.5%	1.4%	1.5%	1.3%	
14.Poland	3,146	5,896	8,790	10,213	13,718	15,341	31,650	順位 19 -> 14 増加率 74.6%
GDP比	1.83%	1.93%	1.85%	2.14%	2.29%	2.23%	3.83%	
シェア	0.4%	0.5%	0.5%	0.6%	0.7%	0.7%	1.3%	
15.Israel	8,328	8,922	13,875	16,457	21,817	23,406	27,499	順位 15 -> 15 増加率 23.7%
GDP比	6.30%	6.26%	5.94%	5.44%	5.30%	4.46%	5.32%	
シェア	1.1%	0.8%	0.8%	1.0%	1.1%	1.1%	1.1%	
World Total	742,488	1,159,108	1,648,584	1,651,869	1,935,007	2,200,587	2,443,399	増加率 6.8%

(出所)資料 1 と同じ

(注)実額・順位・GDP 比・シェアは名目 US\$ ベース。増加率のみ実質 US\$ ベース(2022 年為替・物価固定)

2. 軍事費の推移と2023年実績の特徴

資料1は1990年、ソビエト連邦（ソ連）崩壊直前から2023年までの世界シェアの推移を概観している。かなり大きなグラフだが、米国一強の軍事費シェアの実態を視覚的に理解するには有用だ。1990年には米国の34.8%、ソ連の23.5%と東西冷戦の盟主が双璧となっていた。ソ連崩壊以降、米国一強の時代が継続しているなか、中国がその経済成長と歩調を合わせて台頭した。中国が台頭したといっても米国一強の趨勢に変化はない。2022年にはロシアがウクライナに侵略し、ウクライナが上位に登場するようになった。日本は1995年の6.9%を頂点に、世界2位の防衛費を誇っていた時期がある。GDP比で1.0%前後に防衛費が抑えられていたにも関わらず、経済の強さによって世界2位となっていたのである（注2）。

2023年は1位・2位の米中のシェアが落ちているのが分かる。これは、主にロシアによるウクライナ侵略を受けて、米中以上に軍事費を伸ばしている国が散見されることによる。2023年上位15か国で対前年増加率が目立つのは3位ロシア、7位ドイツ、8位ウクライナ、10位日本、14位ポーランド、15位イスラエルである（資料2）。ロシアは23.5%増、ドイツは9.0%増、ウクライナは他国からの支援分が含まれていないにも関わらず50.7%増、そしてロシアの隣国であるポーランドは74.6%増となっている。ドイツはNATO目標のGDP比2%を2024年に達成するとされるほか（注3）、日本も2027年度においてGDP比2%まで引き上げる方針を示しており（注4）、2023年は10.7%増となっている。イスラエルは2023年10月のハマスのテロ攻撃を受けたガザでの戦闘等により23.7%増となっている（注5）。

上位15か国のランク外でも38位のデンマーク（39.3%増）、46位のフィンランド（54.0%増）、バルト3国の一角、80位のエストニア（28.7%増）などロシアの脅威と近接している国の増加が際立つ。

なお増加率は実質US\$ベース（2022年為替・物価固定）のため、名目US\$の数値による計算とは合致しない。また、2023年4月更新のデータベースにおいては2022年に日韓が逆転して韓国が9位、日本が10位とされていた（注6）が、今般2024年の更新において過去データが遡及修正されており、2022年は日本が9位、韓国が10位と逆転はなかったこととされた。

3. 純金茶碗事件～リアリズムとしての軍事費増

軍事費の増加は、しばしば国際的な緊張の高まりと連動する。特にロシアによるウクライナ侵略のような明確な軍事的侵略はリアリズムを呼び起こし、世界中の国々に軍事力の強化が不可欠であることを再認識させた。リアリズムは、国際秩序をパワー、あるいはそのバランスを通じて理解する考え方である（注7）。今般の侵略は、特に権威主義的な国家に隣接する国の安全保障上の脅威が明確となり、多くの国々が軍事力の増強を求める理由となっている。

今回のウクライナ侵略のように、権威主義的な国家のリーダーが軍事的に誤った判断を下して侵略する可能性は常に念頭に置く必要がある。ロシアのリーダーは、ウクライナの抵抗と西側の支援を見誤ったが、ウクライナを我がものに、との身勝手な「動機」(注8)を後押しする「機会」があるようにみえたということだろう。つまり、「機会」と「動機」を封じるための軍事・外交を含めた「備え」が十分であったのかが問題となる。

筆者は従前から「国民一人ひとりが安全保障を身近に感じる事が重要」であるとの考えのもと、企業の不正防止に係る Fraud Triangle「機会」「動機」「正当化」を援用して「備え」の重要性などを紹介してきた(注9)。これに関連した事件として、2024年4月に東京で発生した純金茶碗の盗難に言及したい。これは、アクリルケースが無施錠だったため、判断を誤り後先考えずに「盗れそうだったから盗った」とされる(報道等より、注10)。カギがかかっていたら盗難は防げた。この事例は「機会」があれば、それを利用する犯罪者が存在することを念頭に対策をたてなければならないという警鐘である。安全保障の文脈では、備えを怠ることは、権威主義国家のリーダーの誤った判断に繋がりがねないこと、侵略の「機会」を提供することに他ならないことを示唆している。

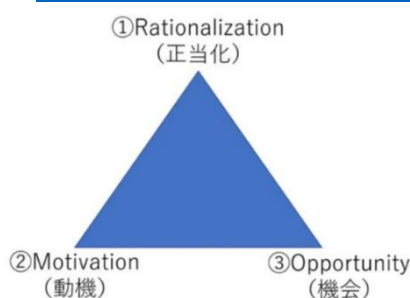
軍事力による備えは、外部の脅威に対応するためのリアリズムのアプローチとして、より一層重要な要素となりつつある。特にウクライナのブチャなどの惨劇を映像で誰しもが見せつけられる今日において、リアリズムに基づくバランス戦略(自力あるいは同盟等により力の均衡を図る)以外の選択肢は取りづらい状況になっている。中立や宥和・バンドワゴニング(脅威となる国に気に入られるように妥協、行動する、注11)で主権と平和を守れるだろうか。軍事費の増加は各国の認識を示している。

以上

【注釈】

- 1) 本稿では SIPRI の “Military Expenditure” のニュアンスに合わせて「軍事費」としている。日本のみに関わる箇所については、日本で一般的に使用されている「防衛費」を使用している。
- 2) 当時日本の GDP (名目 US \$ ベース) も世界 2 位を誇っていたが、2010 年に世界 2 位から 3 位に転落した (IMF “World Economic Outlook Database April 2024”)。なお、世界 2 位の経済大国となったのは GNP (国民総生産) で西ドイツを抜いた 1968 年とされる (経済企画庁 (1969) 年次経済報告 <https://www5.cao.go.jp/keizai3/keizaiwp/wp-je69/wp-je69-02101.html>)。

- 3) NATO ホームページ (2024 年 4 月 26 日) “NATO Secretary General in Berlin: Germany makes major contributions to our shared security”
https://www.nato.int/cps/en/natohq/news_225068.htm
なお、NATO 基準では軍事費に退役軍人への恩給費や海上保安庁予算なども含まれることから、SIPRI の GDP 比とは合致しない。
- 4) 2022 年 12 月 16 日閣議決定「国家安全保障戦略」P19
- 5) SIPRI April 2024, “TRENDS IN WORLD MILITARY EXPENDITURE, 2023” P11
- 6) 石附賢実 (2023)「世界軍事費ランキング 2022、ウクライナ情勢と日韓逆転」
<https://www.dlri.co.jp/report/ld/247056.html>
- 7) リアリズムのパワー、あるいはそのバランス重視に対立する考え方として、自由で開かれた通商、国際機関を通じた協調、あるいは民主主義といった価値観等を通じて平和や繁栄を追求できるとするリベラリズムがある。
- 8) Vladimir Putin (2021) “Article by Vladimir Putin ‘On the Historical Unity of Russians and Ukrainians’ ” 第 4 段落
- 9) 石附賢実 (2023)「未来の侵略の『正当化』に繋がる悪しき前例」
資料 1 「Fraud Triangle」<https://www.dlri.co.jp/report/ld/293676.html>



(出所)第一生命経済研究所作成

- 10) 例えば、産経 Web2024 年 4 月 15 日「『とれそうだからとった』純金茶碗盗難事件、容疑者が供述」
<https://www.sankei.com/article/20240415-FW54SX65BJK2FPWREMHIYXCAMA/>
- 11) 西田竜也 (2023) に詳しい。脅威に対応する国家戦略について、「バランス戦略」「中立」「脅威となる国とあえて協力する戦略」に分けて整理されている。

【参考文献】

- ・SIPRI (ストックホルム国際平和研究所) (2024) “Military Expenditure Database April 2024”
- ・西田竜也 (2023)「新冷戦下の国家の対外行動ーバランスと同盟を中心にー」国際安全保障第 51 巻第 3 号